

月刊

GPP



Vol.52

令和2年2月号

株式会社
グロースパートナーズ

鉄は国家なり

年末に武漢出身の知人から「あと数週間もすれば武漢は世界で最も有名な都市になってるよ」と言われたが、本当にそうだった。その人は日本に長年住んでいる方であるが、親戚一同はシンガポールやカナダに年内には避難させていた。

さて、先日、知り合ってからかれこれ10年以上が経つオプティマス社・萩原代表にお声がけ頂いて、スモールサン主催のインターネットラジオ・“スロー・トーク”に出演させて頂いた。

 **YouTube** <https://youtu.be/Uj6pWCBzX0c>

セルドロン事業に携わるまでの経緯や環境系ビジネスのポイントにつき話をさせて頂いた。感想としては「自分の声は聴きたくない」と「萩原さんは慣れてるな」。萩原さんの絶妙な誘導で楽しい時間を過ごすことが出来た。ありがとうございました。

セルドロン事業の立ち上げから今日まで、本当に無数のの方々にお世話になりながらやってきた。ラジオでは皆様全員のことをお話する訳にはいかず、具体的な内容のお話しをすることが出来なかったのが、残念である。番組でも言わせて頂いているが、とにかく建設業界は新参者に厳しいし、冷たい業界である。我々がここまで来れたのはほぼ奇跡的で、ここからどこまでたどり着けるかは全く見えていないのが現実である。

京都大学・木村先生、澤村先生との出会い、そして今や泣く子も黙るSDGs。この2つを武器で邁進するのが最も近道だと考えている。

一方、先日、新日鉄の大幅は採算悪化と基幹工場の閉鎖や稼働低下のニュースが出ていた。“鉄は国家なり”と声高々だったのは70年前、もはや見る影もない斜陽産業の仲間入りだ。一方、建設業界。ここ数年は大阪万博、リニア、都市部の再開発案件で活況な業界であることは間違いない。また、高速道路、水道、電線埋設等々のメンテナンス事業も永続的であろうし、長い目でも見ても“日本”という国が存続する限り、株式会社日本から発注はなされることであろう。しかし、30年後、今のような数の建設会社は存続していないはずで、1/4以下の会社数になっているのではないか。事実、就職希望者数が格段に落ちてきている。新参者を受け入れない業界、右にならえの業界、チャレンジを恐れる業界はいずれ必ずや縮小する。

セルドロン事業にとっていまは建設業界が一番のマーケットであることは間違いないが、30年後も存続しているであろうか？ いやいやそんな先の話よりも、明日の一步、明後日の二歩と、まずは足元を見ることに精一杯である。

藤井 成厚

セルドロン事例紹介

其の一 中庭でセルドロン採用

ある企業の敷地内でセルドロンが採用されました。
セキュリティの高い施設であり、施工状況の撮影は禁止でした。
現場は、もともと低い土地で建物の影になり、雨がふってしまうととても困る場所だった
そうです。工期が迫っており、セルドロンで改質しすぐに植樹をするスケジュールを予定。
セルドロンの効果もあり、なんとか期限内に完了したようです。

この時期特有の水分を含んでしまっている軟弱土に、植樹をする造園工事には
セルドロンの効果が発揮できます。
軟弱土をそのまま活用し、自然に影響を与えず工期短縮可能です。
ぜひ、ご検討ください。

其の二 アスベスト残渣の受け入れについて

アスベスト廃棄物の処理を受け入れている処分場に訪問してきました。
アスベストを受け入れるには様々な規則があり、
(他の廃棄物と分別、廃棄物の飛散防止、耐水性の材料で2重梱包など)
特に管理徹底されているとのことでした。
また、来年度からはアスベスト工事が一般住宅でも届け出義務化される見込みで、
アスベスト廃棄物が増加する可能性があるそうです。

規制強化によって戸建て住宅の解体だけでなく、部分的なリフォームといった工事も
対象になる見通し。届け出件数は2018年が約1万3千件だったが、新規制のもとで
200万件超に増えると厚労省は試算する。
石綿を使った古い建物の解体工事は、ピークとされる30年ごろに向けて増えると予想
されている。空き家対策でも石綿の処理が課題になると見込まれている。
(朝日新聞デジタル20191203一部抜粋)

ある湿潤施工(ウォータージェット)でアスベスト
含有塗膜除去を行っている会社では、
アスベスト残渣物をセルドロンを利用して固定化
して運搬しており、セルドロンがとても有効だと
言っております。
今後もアスベスト除去工事を行う際は、セルドロン
をお試しく下さい。

